

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392900082		
法人名	株式会社 ニーナム		
事業所名	グループホーム花音		
所在地	八代郡氷川町宮原588番地2		
自己評価作成日	令和5年9月24日	評価結果市町村受理日	令和5年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205
訪問調査日	令和5年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個別の関わりを大切にしています。今できることを見守りながら、ご自分の力を発揮されるよう、手助けを行っています。 ・意思疎通ができない方でも、歌なら歌えるし、踊りなど、それぞれのご利用者の意欲を引き出すケアに努めています。 ・目の前が神社で、毎年、秋季大祭時には、グループホームの広場が観覧や神輿行列の場所となるなど、環境に大変恵まれています。 ・毎週土曜日には、子ども食堂が実施され、ホームにも子どもたちが遊ぶ声が響き渡り、昔、見た光景が蘇るようです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の前に神社があり民家に囲まれ、地域との繋がりが感じられる事業所です。介護事業所に限らず事業の統廃合が進んでいる現在において、変化や改革が必要な時代になっています。当事業所においても外国の介護職員の雇用やIT機器を利用した取り組みがなされています。このような混乱な時期においてご家族やご利用者が何を望んでいるかを見極める時期に来ているように思われます。改革や電子化の活用において介護が効率的、効果的であり、ケアの質向上を目指すものである事は事実です。これからの取り組みに期待いたします。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームにおける認知症介護は、誰にでもできる仕事ではないと思います。ひとりひとりの人生や性格、価値観がケアに反映される為、責任重大です。	これまで培われた理念や思いを大切にされてこられた事が地域に根付いたグループホームとして認知されているようです。	これまで認知症ケアに取り組まれて来られた思いと新しい経営方針との融合を図り、効率化とケアの質向上に努められることを希望します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同町に生まれ育ち60年が過ぎ、グループホームを開設し15年目を迎えますが、若い頃にお世話になった方が入所され、家族のように共に過ごす不思議な縁に感謝しています。	地域の中で時代の流れを感じながら地域交流を大切にされています。	地域交流が次第に希薄な関係になりつつあります。新たな繋がりを模索しながらご利用者様の生活が豊かになると良いですね。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム花音は、近年、中重度の認知症の方を受け入れる傾向にあります。が、他施設で受け入れできなかった方が、当ホームの生活に馴染まれ、ご家族に喜んで戴いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの入居者様の課題について事例を発表し、日頃、スタッフが関わっているケアについて皆さんに理解を促しています。	運営推進会議で事業所の活動や課題を話合い、地域の情報収集や情報発信が行われています。	認知症になっても地域で暮らせる啓蒙活動になると良いですね。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	独居のご主人や兄妹の方の様子や近況を聞いたりして、ご家族を含め、ご本人の安心に繋がるよう気がかけています。	運営推進会議でも連携されています。	行政指導のみでは解決しない問題が多くなっています。事業所の存在が地域の受け皿になると良いですね。行政の情報を確認しながら、制度の変化に対応されると良いですね。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の行動を阻止したくありませんので、帰宅願望が強い時等、付き添い親身になって話を聞くようにすると、「誠意は伝わるんだな」と感じたことがありました。	身体拘束の研修を行い、マニュアルも準備されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今までグループホームで培ってきた思いが、知らない間に地域の絆づくりに繋がっていることに気づき、大変、感慨深い思いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の補佐人をされている方に定期にお会いすることで、他のご利用者の方についても相談に応じて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	大切な内容については、直接、面会時などにお伝えすると共に、書面で同意を頂いています。また、定期のお知らせを活用し、情報提供と理解の促しを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員はご家族等の面会時には、近況を伝えるようにしており、管理者はできる範囲で、どちらか1人はホームにしているようにして、ご家族とお話する機会を大切にしています。また、ご利用者に変化があれば、必ず近況をお伝えしています。	毎月の残高のお知らせと一緒に、ご利用者の状況も文章で提供されています。ご家族のアンケート結果は高い評価を得られています。無回答が6項目に見られます。	リモートやタブレットを用いた情報発信が出来ること、より具体的な意見が聞かれると思います。散歩や日常生活の様子等が動画等で見える化出来ることケアの関心度が高くなります。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフと個別に会い、お茶を飲みながら思いを聴くと共に、信頼関係が維持できるようにして、現状や課題の把握に努めています。	定期的に意見が言える機会を作られています。	現状の課題と問題点から対策を話し合い相互理解を得られる関係作りが出来ると良いですね。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフそれぞれに生活事情があり、あるがままを受け入れながら、互いに共生していくことは大変ですが、調和することの大切さをよく考えながら、少しずつ環境整備を図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、地域密着型サービス連絡会とは別に、4事業所合同で研修会を企画し、ホームに持ち帰り勉強会を開催しています。1回/年は、研修会の講師も担当して勉強しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年、特に他事業所や訪問系、専門職の方との交流も多く、知識や情報の共有を図ることができ、ご利用者のケアに繋ぐことができました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報で疑問点は速やかに解決できるようにこまめにやりとりを行いました。入所後は環境が変わりますので、本人としっかりお話ししながら様子観察すると共に、スタッフ間で情報の共有を図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の今までの介護に対する心労を考え、入所初日から、しっかりとご本人に関わり、不安を乗り越えられ、穏やかに1日を過ごされたことを電話等で伝え安心していただくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	速やかに対応すべきことはすぐに対応し、様子を観たり相談すべきことの見極めをしっかりと行い、ご家族や医師との連携を密に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム花音では、その時の状況により、「お母さん」と呼びし、家族に成り代わり信頼関係が築けるように関わっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	よく面会に来られ、食事に付き添われるご家族がいらっしゃいますが、スタッフも他のご利用者の方とも顔馴染みになられ、団らんを共に過ごされる場面が、とてもアットホームに感じられます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの近くにある知人の家まで散歩される方、近所にある今は亡き妹さん宅まで歩かれ付き添いすることもあり、思いに寄り添うようにしています。	地域の高齢化とともに、入所が長くなると馴染みの関係も途切れがちになります。子供食堂は新しい関係作りになっているようです。	新しい地域づくりや、地域貢献から馴染みの関係作りが出来ると良いですね。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が上手くいくように、必要に応じ席替えをしています。中には、自分の決められた席でないと納得されない方もあり対応しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院になられ、当ホームへの復帰はできない方を今も定期的に面会し、その回復ぶりを観て今後の支援などについても、ご家族とやりとりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出を好む方、おしゃべりが好きな方、花や外の景色を眺め過ごされる方、皆さんと歌を楽しむ方、ペット犬の「クッキー」と戯れ過ごされる方等、個別の楽しみを持って過ごされるように配慮しています。	それぞれの思いに添ってケアがなされていると思いますが、介護に対する意向に本人の思いや家族の意向がケアプランの1表に反映されていません。このため生活の目標の具体性が弱いと思われます。	担当者会議や家族の来所時に意向の確認をしながらその人らしさを表現できると良いです。思いを伝えられないご利用者の意向を生活歴からの掘り起こしをされるのも一つの方法です。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地元、宮原の方は、管理者と馴染みの関係にあり、また、昔の記憶を辿ると、懐かしい生活歴が観えて会話が弾みます。竜北地区の方は、管理者やスタッフの両親と繋がりが有るなど、思わぬ発見があり談笑することがあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、共に過ごす中で、個々の方の異変に気付くようになりました。介護する私たちが利用者の健康と安全を第一に考え、速やかに対応できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在、往診可能な医院＝5件、訪問看護、訪問歯科、訪問理容、薬剤師等の方にこまめに相談や助言を戴いおり、ケアの見直しに繋げています。	3ヵ月毎のモニタリングは項目に添って細かく記録されていますが、ケアプラン、介護計画に連動したモニタリングになっているかは確認できませんでした。	タブレットを利用し、日々の記録や看護記録、カンファレンスの内容が記録されています。介護計画からの一連の流れが見えると日々の記録が生きてくると思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝のミーティングや毎月の勉強会／カンファレンス会議を実施しており、必要なサービスができるようにスタッフの気づきを反映するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「かのみ音頭」を毎日唄って踊って... 傾眠の多いご利用者も、この時ばかりは元気に太鼓を叩いたり、ハッスルされ、ケアに繋がっています。また、三味線伴奏での合唱は皆さんとてもリフレッシュされます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの各業者さん等とも、すっかり打ち解けられ、気軽に話しかけコミュニケーションをとられています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診される際は、様子を記録し、日々の観察記録を観ていただくようにして、助言をいただくようにしています。	受診介助が可能な家族はこれまでのかかりつけ医の受診を継続されたり、受診が困難なご利用者に対しては訪問診療を希望されています。訪問看護も利用され医療体制は充実されています。	訪問診療や訪問看護の体制は出来ています。今後は最後までその人らしい生活の中で見取りが出来ると良いですね。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師1名が常勤で在籍しています。週1回の訪問看護を受け、必要時は、いつでも相談可能となっています。また、薬の配達をお願いしている調剤薬局も、随時、相談にのって頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期に病院に出向き、様子を観てソーシャルワーカーに繋いでいます。状態を把握しグループホーム復帰がご本人にとって適していると判断した場合は、ご家族と話し合い医師に相談し、早期退院に向けて動いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医やご家族と利用者の現状について十分話し合い、今後の支援について方向性を明確にするように努めています。また、グループホームと他事業所の役割についても理解を促し、ぎりぎりまで普通の暮らしを支援していることを説明しています。	普通の暮らしの中での終末期ケアが出来る様に頑張っておられます。	訪問診療や訪問看護の体制は出来ています。今後は最後までその人らしい生活の中で見取りが出来ると良いですね。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の恐れがある場合は、こまめに様子観察すると共に、ソウレンソウを徹底し備えています。また、突発的に起こる出来事には、いつでも連絡がとれるよう体制を整えています。また、毎年、緊急時の勉強会に数名参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的勉強会や訓練を実施し、実際に災害があった場合を想定し、より具体的な避難の方向性を示しています。	災害に対する訓練は年2回実施されています。令和6年4月からの業務継続計画(PCB)災害、感染マニュアルも作成されています。	これまでの避難訓練から事業所、職員の被災や感染による業務の停止状況から業務が遂行できるまでの計画作成が必要になってくると思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	向上心があり勉強会に参加すると、そうでない人に分かれており、参加者は前向き、参加しない人は「できない」の言葉が聞かれますので、課題として受け止めています。	ポータブルトイレの位置や解放されたトイレのドアが気になりました。	職員から私が考える尊厳とはプライバシーとはから始めるのも一つの方法と思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者は、ご自分の世界での思いがあり、その思いを阻止せず、誠心誠意で関わることを大切にしていきたいと、新任スタッフさんと最近、話したことがあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所当日ご家族が帰られ、強い帰宅願望があり、引き止めようと行動を阻止する場面がみられましたので、それは間違っていることを伝え、外出して頂きました。その後、新任スタッフが親身になり対応することで、穏やかに帰設されました。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	麻痺がある方には家族に報告し、着易い生地サイズの合う服をスタッフが見つね買ってきてくれます。センスのよい服を着ておられると、みんなで「モデルさんのごたっですわね」と談笑しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いは快く、おかずの盛り付けなどは、とても丁寧に行っていて頂いております。誕生会のケーキづくりには、頑張って仕込みを手伝われます。	事業所内で本人の嚥下状態にあった食事作りがされています。	食事は高齢者にとって最も楽しみの一つです。食事を楽しむための雰囲気作りが出来ると良いですね。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食を摂ろうとされない方には、手を変え品を替えて召し上がって頂けるように関わっています。また、医師に相談したうえで、栄養補助飲料も飲用していただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に歯科衛生士資格者職員1名在籍 居宅療養管理指導：訪問歯科を利用されており、医師や歯科衛生士による指導を随時受けて、食事前後の口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる範囲で布パンツを使用して頂き、排泄パターンの把握を行い、トイレでの排泄を支援しています。また、夜間オムツ交換の方も、日中は二人介助にてトイレを使用しています。	状態に応じて布パンツや紙おむつを利用されていますが、自立に向けた取り組みは難しい状況となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	楽しみながら身体を動かせるような活動を心がけ、また、楽しいおしゃべりで沢山笑って過ごしたり、朝から牛乳を飲んで頂くなど、それぞれの方に応じて関わっています。水分不足の方には、時間をかけて十分な補給に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はスタッフが利用者とのコミュニケーションを築ける大切な時間と捉えています。入浴拒否の強い方には、無理強いせずタイミングを見計らっていますが、数日続く時は、家族の協力をお願いし誘導して頂くこともあります。	季節を感じる、しょうぶ湯やゆず湯はされています。入浴拒否のご利用者にも工夫をされています。	ご利用者の重度化に伴い、リフト浴の導入を予定されています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態や日中の様子を観ながら、休息と活動の調整を図っています。また、仮眠時間の調整時に医師の助言もいただき、廃用性の予防に留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の状態に合わせ、薬の変更、錠剤／散剤の選択を見極めるなど、医師や調剤薬局、訪問看護に助言を求め、個別に対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家政の手伝いは、皆さん協力して行っていますが、トラブルがないように見守りながら、できる範囲で行って頂いています。肩もみや足のマッサージ等のスキンシップは大変喜ばれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時を見計らい、ドライブに誘って気分転換を図っています。場所は自然が綺麗なところやショッピングセンターへ出かけ、美味しいものを食べて帰ってきています。	軽度の方の外出は出来ていますが車椅子の方の外出は難しくなっているようです。	全てのご利用者が外気に触れるよう計画出来ると良いですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々「お金を貸してほしい」訴えや利用料を気にされる方がいらっしゃいますが、安心されるように話を傾聴しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染予防の期間に、暫く会えないことで、家族のことが分からなくなつては困りますので、別棟の交流スペースで個別に面会できるようにして、ご家族も大変喜ばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年9月より、毎週土曜日に「子ども食堂」が開催されています。子供たちの元気な声がかげ心地良く響き、玄関から、お孫さんが「ばあちゃん」と声をかける場面が見られます。	廊下には絵画が飾り重厚な趣が感じられますが、皆さんや地域の方が集うリビングにもテーマを持った空間づくりが必要です。孤独を好まれる利用者の方には、廊下にソファとテーブルを置いて一人で過ごせる空間を提供されていました。	今後も一人ひとりの安心できる場所づくりを工夫されると良いですね。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	目の前が神社にて、人や車の往来もあり、外の風景を眺められると気持ちも落ち着かれる様です。また、2ユニット間の通路で、ペット犬の「クッキー」との触れ合いを楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	おひとりの方は、お仏壇やご主人の写真を持ち込まれ、毎朝夕に手を合わされておられます。	居室には家族の写真が飾っており、これまでの生活の歴史が感じられました。	これからも個性的な部屋作りが出来ると思います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に動かれるご利用者の方の車椅子を本人の思いから、あえてブレーキを掛けないようにしています。その代わりに、立ち上がりの際に転倒がないように自動ストッパー付きの車椅子を使用いただいています。		